

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

（全般モニター使用）ただいま、議長に許可をいただきまして、一般質問をさせていただきます。猪村利恵子です。よろしくお願いいたします。

改めまして、おはようございます。

私5月18日に武雄市の婦人会の総会に参加させていただきました。北方の文化ホールでございました。そのときに新しい学校づくりということで武雄市教育長、浦郷教育長が御講演をなさいました。そのときの講演に参加した折につづった文章を、私がそのときに感想を書いた文章がございます。これをちょっと読まさせていただきます。

婦人会での講演会において教育が語られる、市内さまざまな場所で教育、子どもたちの未来、ひいては今後の武雄市について真摯に語り合い、学び合いが開催されていることに大きな意義があると思う。人は生まれその人生を終えるまで学びが傍らにあるということをきょう私は再認識させられた。市民の皆様が普段立ち話でも教育について語られる町は、全国探してもそうないのではないだろうか。それは大変幸せなことと捉えなければならない。始まりは賛否両論あるのが当然。それは市民の皆様がまじめに捉えてくださっている証拠であろう。家庭教育、学校教育、そして社会教育と、人は生まれながらにして段階を追って、教育の中で生き、暮らしているといっても過言ではない。市民の暮らしが豊かになること間違いなしの施策であると私は考える。と、このとき所感をこうつづっておりました。

私は前任、教育委員でございました。その前は社会教育指導員として北方公民館に配属をいただいております。武雄市の教育に関わらせていただき、本当に職が人を育てるとも申しますが、私は武雄市の教育で今ここに立たせていただいているんだと、本当に感謝申し上げる次第でございます。申し訳ございません。

この市長3期目の教育改革に携わらせていただくことを、大変私は嬉しく、それから誇りに思っております。子どもたちの、未来ある子どもたちのため、それから市民福祉の向上のために邁進してまいります。16回のこの場にしっかり立ち、市民の皆様の声が届きたいというふうに思っております。どうぞ、しっかり頑張ってください。よろしくお願いいたします。

それでは一般質問に入ります。私の一般質問、市長3期目の公約についてでございます。1つは公教育の改革、水道事業、六角川水害対策、調整池などがございます。まず公教育の改革、1つ目は武雄市の教育についてです。毎年つくられております、この教育委員会がつくられております、この武雄市の教育についてお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員、そこで質問しますか。

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

今1つ目の質問しましたが。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）（続）

先ほどすみません、質問したつもりでございました。（「立って、立って」、「立ちなさい」と呼ぶ者あり）すみません。先ほど質問いたしました、1つ目、この武雄市の教育について簡単に結構ですので、説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）婦人会の折にお話しさせていただきまして、そこから話を始めていただいてこちらも改めて緊張したところでございます。教育は計画的な営みでありますので、法的にもですね、教育基本法を始め、この計画的な施策を推進するという条項があるわけでございます。その中で武雄市の教育というのを毎年、作成しているわけでございますが、大体年度末、前年度末には学校とか公民館に届けて、次年度の計画にできるだけ生かしてほしいという思いで作成するんですが、今回は少し教育改革も大規模でありましたものですから、この時期に、4月当初になりました。（発言する者あり）出してもらっていいですかね。武雄市の教育はその方針に基づいて進めるわけでございますが、6年目になりますけれども、1年間のその成果についても評価をしております。これは実はいろんな町、その外部評価をお願いしているわけでありましてけれども——これですかね、実はその評価委員さんとお話しますときにですね、武雄の教育委員会の評価はかなり難しいなという声も聞くんです。それだけですね、非常に新たな改革が多いということでもあるわけです。

今年度はこういう概要版も今お手元に差し上げてると思いますが、今年度の重点等も強調しまして、概要版を作成しました。厚いままではちょっと読みづらいということもありましてですね、概要版を作成しているところでございます。

ちらっと出しましたけれども、現在の今の私どもの思いとしましてはですね、市長さんのブログの言葉の一部に教育を加えさせていただきまして、最大限頑張っていきたいという思いでございます。まあ、この、まだほかにもあるわけでありましてけれども、昨日も申し上げましたけれども、それぞれがですね、ほんとに全国でも特筆すべき取り組みであるとか、初めての取り組みであるというのでもかなりございまして、このような形で進めていきたいというふうに思っているところです。すみません長くなりました。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

武雄市の教育が大きく変革の一途をたどっている中でございますので、その中での武雄市

の教育は礎になるものと考えております。今後とも市民の皆様と教育、学びを共有する上で大切なものとなると思いますので、今後ともよろしく、作成していただきたいというふうに思っております。

では次の質問に入ります。毎年開催されている子ども議会のことについて少しお尋ねをしたいと思います。きょう私も初めての一般質問でどぎまぎして失敗したりして先輩の議員さんたちから叱咤激励をいただいたところではございますが、子どものころに子ども議会のような経験をするというのは大変貴重なことであり、自分たちの学校、また、まちづくりを考える上では大変貴重な経験となるのではないのでしょうか。今年度子ども議会についてどのような計画があるかお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

武雄の子ども議会は平成 21 年度からこれまで、21 年からですね、5 年間実施してきたわけでございます。御存じのとおりこの議場をお借りしましてですね、議長さんも実際に議事を進めていただきました。部長さん方から答えもいただきましてですね、とても貴重なこれは社会科の学習としても貴重でありましたし、こういう場を経験するという意味でも非常に貴重な経験を積ませてもらってきたところであります。今年度につきましてはですね、5 年間の授業で一定の成果を得たというふうに感じておりますので、形を変えましてですね、子どもたちが自分たちでテーマを設定してその設定したテーマについてですね、学校の枠を越えて市内の中学生が問題解決の場とし、あるいは協議をすると、学校間の連携、交流を図ると、そういう場として武雄の子ども会議ということで計画をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ実は教育長がきのう議会が終わってから私のところにお越しになって、まあこういうもう子ども議会が、一定もう 5 年間ということがもう成果も出てますし、めどがついたということ、私はちょっと違う側面がありましてね、かなりもうこれ硬直化してしまったと。最初の、初年度はかなりこう談論風発とかね、もう子どもたちが自由に言っていたのがだんだんこれ理科の研究発表みたいになっちゃって、もうこれ学校をあげてやって、なんかこう子どもたちが子ども議会から大人議会にこうなってるなあということで、僕もちょっとなんとかしなきゃいけないなと思ってたんですね。

それと一方、谷口攝久議員さんが御自身の一般質問のときにね、一部だけを引用してあたかもなんか私がなんか悪いことを言っているような、あれ結構やっぱり反響がありましてね、かなり萎縮の話もやっぱり出てたんですね。だからそれを踏まえたときに、まあもうこの際

やっぱりこう衣替えをして、子ども議会から子ども会議というのはもうまさにそれはいいタイミングだと思っております。

ただし私ね、重ねてで本当にしつこいで申しわけないんですけども、やっぱりね、これをこうすべきだっていう議員はもう必ずね、その前にちゃんとお金返すべきだと思うんですよ。いやこれ笑い事じゃないですよほんとに。あのね、べき論を私ども市民に言う人がね、無職の高齢者の方にね、高い報酬がありながら返さないって。やっぱり今議会から報酬を上げろ上げろって僕も言ってるんですよ。もう上げたくないですよ、もうそんな。またこれ勘違いとか誤解とかされますので、ほんとにね、許せん。だからそういう人たちが、そういう人がね、べき論を語るっていうのはちゃんちゃらおかしいと思います。そういう意味で今回大人のちょっと硬直化したね、その、議会から子ども会議というのは、重ねてでありますけど私どもとしても支援をしてまいりたいと、このように思っております。(発言する者あり)

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

私も大賛成であります。(笑い声) 武雄の子ども会議が大賛成ということです。生徒の自主性を養う非常に大切な事業と考えます。ぜひ実りのある、さらに実りのある事業にしていきたいというふうに思っております。

では次にまいります。タブレット導入、スマイル学習、それから官民一体型の教育についてでございます。これは豊村議員さん、上田議員さんも御発言なさいましたけれども、視察に行ってきたときの写真でございます。非常にですね、ほかの議員さんたちもおっしゃいましたけれども、視察に行った議員さんたちおっしゃいましたけれども、背筋を伸ばしたり、読み方、書き方、瞬時に褒めて、そして直す、それが非常にスピード感がある。そして子どもたちがもう本当に5分おきぐらいに変わっていく、授業の中で、子どもたちが必死に目を輝かせて楽しく授業に取り組んでいるという姿を目の当たりにして、本当に楽しみだなと。うちの子もう24—3歳—になりますけれども、うちの子にも体験させたかったよね、お父さんと言ったら、うーんそがんのおって言っておりました。非常にですね、子どもたちが、ほかの議員さんの発言もありましたけれども、楽しくそして積極的に自主的に参加ができています。目をらんらんと輝かせてですね、授業に取り組んでいた姿が目には焼きついております。これは私が、写真を撮っていたのは全部1年生であります。すばらしかったです。

それに私が感じたのはもう一つあります。この高濱先生が一人ひとり、3時半ごろから視察をさせていただいたんですけども、子どもたちが来るのをですね、真剣にもう嬉しそうにですね、声をかけて待っていてくださっているんです。そしてここ、今靴が、子どもたち脱いで——ちょっと雨がしとしと降ってたんですけども、子どもたちですね、靴をそろえてない子にはですね、何々ちゃん靴そろえてないよ、靴もそろえようね、上手だね、靴そ

ろえてた子どもさんには上手だねって、よく気が付いたね。本当に一人ひとりに温かく声をかけてくださっていた、こういう先生ですね。それから代田教育監、私も教育委員の時代からいろいろ御示唆をいただいておりますが、この先生方の人間性であります。私は本当に毎日真剣に子どもたちに向かい合ってくださいているこの先生方が武雄市にいてくださる、そしていらっしゃってください、これは武雄にとって大きな財産ではなからうかというふうに思っております。これをですね、今頑張ってくださいている先生方、本当に毎日毎日、今現に頑張ってくださいている先生方、現場で頑張ってくださいている先生方、武雄市の先生方、本当に毎日研さんを積んでですね、非常に頑張ってくださいている先生方、それにプラスしてこの学習ができる子どもたちは幸せではなからうかというふうに思っております。

しかしながらですね、きのう山口裕子議員さんもお尋ねになりましたけれども、不登校さんや引きこもり対策、いじめ防止、それから特別支援教育などの取り組み、これには大変有効であるというようなお答えをいただきましたけれども、私もそのように承るところではございますが、まだやはり置き去りにになっていく子どもたちがいないかどうか、それをもう一度お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）できるだけ簡潔に申し上げたいと思います。諸石委員長がよく言われる中にですね、子どもに寄り添って子どもたちの心の声を耳にしっかりと受け止めてということと言われるわけでありまして。これは基本としてですね、どの教室でもしてもらってる、それが基盤にあって、またこの新しい教育の推進も可能かというふうに思っております。

またきのう話がありましたように、この官民一体学校の根底のねらいの中に、こういう学校に行けない子どもたちや、あるいはいじめ防止等のねらいも共通するものだという事は御理解いただいたものかというふうに思います。まあそういう中で現状を把握していただくと、御理解いただくということで申し上げたいと思います。次の――（発言する者あり）（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○浦郷教育長〔続〕

そういうことで不登校関係でございますけれども、現在少なく、数としては減りつつあるとはいえ、まだどうしても学校行けない子どもたちもいるわけでございます。そういう中で、県や国の予算等も対応しつつですね、スクールソーシャルワーカー、これは家庭支援という面が主になりますけれども、スクールソーシャルワーカーの方、カウンセラーの方、訪問相談員の方と各学校の分担等をしながらですね、進めているところでございます。

それからいじめにつきましてもですね、御存じのとおり報道等もなされておりますけれども、あって当たり前だということですね、各学校ともアンケート等も頻繁にやりながら早期発見、早期対応ということでやっているところでございます。

それから特別支援教育でございますが、これは昨日も若干述べたところでございますが、やっぱり一人ひとりのニーズに対応したきめ細かな指導というのが最終的には求められるわけですので、その個別の支援計画とか指導計画、このあたりについて随分進んできたかなというふうに思っておりますし、意識して進めてもらっているところでございます。昨日も紹介いたしました発達障がいに関する教職員の専門性向上事業ということで、市内の先生方も本当に研修も積んでいただいております。子どもたちをどう理解するかと、そしてその子どもなりですね、状況を把握した上でより適切な対応ができるようにということで推進をいたしているところでございます。

いずれにしても、それぞれが独立した計画ではなくてですね、新しい学校づくり、あるいはスマイル学習等ともですね、連動しながら効果的な政策にしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございました。いずれにいたしましてもきめ細やかな支援よろしく願いいたします。

では次にまいります。教育委員会制度についてでございます。ちょっと見にくいですがけれども平成27年度4月1日より教育委員会制度が改訂になります。現行はこちらです。市長が教育長、委員長を任命、罷免の権利があつて教育長が教育を、事務局と重なっているところで、これを改正後は教育長が新教育長という形で委員長と教育長を兼ねて、それから委員が4年、教育長は任期が3年ということであります。任命権者は変わっておりませんが、一応こういうふうな流れとなっていきますけれども、市としてはどのようにお考えでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありましたように教育委員会制度改革が進みまして、教育改革もいよいよ本当に教育委員会の制度まで改革するときになったという思いがいたします。まあもう御存じと思いますがそのねらいと趣旨としましては、より責任を明確化していく。これは教育長の責任でやってるのか、委員会としてやってるのか、私はわかっているつもりでやっておりましたけれども、わかりにくい部分も確かにあろうかというふうに思います。そういうことで

こういう、これは全国的な問題であったところです。

それからいじめ事件対応に象徴されます、迅速な危機管理体制の構築と、これは今——ちよっと長くなって申し訳ないですが、実は先日ですね、教育委員の皆様にある学校に集まっていたきました。急に臨時の臨時というような感じで。どういう形で例えばいじめ等があったときに対応が可能なのかということの一つのですね、教育委員さん方とも共通理解した上での試みであったわけですが、こういうことはさらにやっぱり考えていかなければいけない、その迅速な危機管理体制。

それから首長との連携の強化ということで、言われております、これはもう現在私どものやっている改革のあり方と共通する部分はかなりございます。

それから地方に対する国の官への見直し等々、こういうことが制度改革の趣旨として言われているところでございます。

具体的な変更としては先ほど図でお示しいただきましたように、教育委員長と教育長を一本化して新教育長となると。直接の任命権は首長で議会の同意を得て行くと。首長と教育委員会で総合教育会議を開催して基本方針等を決定するというような形で、教育委員会というのは確かに制度としては残っていくわけでございます。今の時点ではっきりしておりますのは教育長の任期が変わる時点で新しい制度に、ですからまあ4年かけて改革がなされていくという形でございます。現在はっきりしているところはそれだけでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私はこの制度は迷惑です。いや、ちゃんとやっていますから。浦郷教育長を中心として教育委員長もあって、今度はね代田教育監も入っていただいて、僕は甚だうまくいっているところ、しかも教育と政治は分けたほうがいいですよ。これあんまり政治家である首長の意向が入り過ぎるとね、ますます学校現場は硬直化しますよ。だから一定の緊張関係があつて私はしかるべきなのに、ちょっとこの頃やっぱり自民党おかしい。これ公明党反対しなきゃ、ちゃんと。ですのでやっぱりね、こう分けて、教育は分けて考えるべきだと思う。

それともっと大事なのがありまして、これ学校現場にもっと裁量権があるべきなんです。例えば荒川区、東京都の荒川区はね、この前、区長とも話をしましたけれども、西川区長と話をしましたが、校長に100万円の裁量権があると。今ですね、どうなってるかっていうといちいちこれ学校が教育委員会と話をして教育委員会は、予算の編成権は私のほうにありますので、私から議会につなげなきゃいけないですよ。そうすると実際予算が必要な時期と、予算が支出できるのと大きくやっぱりずれることにもなるわけですよ。ですので予算も含めてね、人事も含めてもう少しやっぱりこう教育委員会じゃなくてね、学校現場に、校長先生にきちんとやっぱり権限を委ねるべきだと。これが私は教育の分権だと思っています。

子どもたちの顔が見える現場に、実際の権限があるということは僕は理想だと思うんですね。ですのでそういう意味で言うと、今度代田さんが校長で今赴任をしていますので、そういった改革はぜひまとめてもらおうと思っています。そういった意味で現場がもっと生き生きね。

今学校の先生、僕の妹が小学校の教諭ですけどどこを見ようかという、市の教育委員会とですよ——これ違う市ですよ、伊万里市ですけど（笑い声）市の教育委員会と県の教育委員会ばヒラメンごと見わけですよ、顔もヒラメンごとになってきたんですもんね。ですのでそうではなくて、お上を見るんじゃないかと子どもたちを見てくれということからして、今回せっかく教育委員会の制度にメスが入りますので、あわせて武雄市としてはその現場にもっとね、生き生きした活力のある現場になるように、私たちはもう一回制度設計をきちんとやっていきたいなとこのように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番 猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

さらに生きた教育委員会にするというような市長の御発言をいただいたところでございますが、大阪の箕面市はもう既に教育委員の改革が進んでおりまして、増員等の検討もあっているようです。武雄市の教育委員会においてその教育委員の増員、それから協議の回数を増やす。これを生きた教育委員会にさらにするためにどう思われておりますでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これNHKのクローズアップ現代で、私もたまたまその箕面市の取り組み、まあ市長が私のもものすごく仲のいい、数少ない仲のいい友人ですので、まあそれも含めて好意的に見てたんですけれども、ああやっぱりもうこうですね。教育委員会が生きた教育委員会になる。今現行が5人なんです。やっぱりすごく識見が高い方々なんですけども、やっぱり5人で今の複雑多岐にわたる教育現場をカバーするのは不可能なんです。それで、これ議会のお許しをいただいて増員をしたいと思います。できれば倍増すると。その倍増した分については特に女性に入ってきてほしい、保護者の方に入ってきてほしい、地域の方に入ってきてほしいということにしますので、これ9月議会で改正案を出します、議会に。それよく御審議をした上で、まあ早めに教育委員会の増員体制でやっていきたいというように思っております。

これもやっぱり教育委員会で、しかも保護者が、僕は女性を期待してますけど、入っていただくことによって、もうそれこそ本当にあれですもんね、学校現場がこう切り離されないということになると思いますので、これはもう絶対にしていきたいと思っています。その

上でこれはもう公募にしていきます。公募にしたいと。この5人には全員公募にします。公募にした上で幅広く入ってきていただいて、これは私も入って面接をしますけれども、その上で10人体制ということではまいりたいと思っております。

いずれにしても今度官民一体学校、スマイル学習等で相当学校現場をさらにサポートする必要がありますので、そういう意味で議会の御理解を賜ればありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番 猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございました。教育委員会の見解もお尋ねしてもよろしいでしょうか。お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

市長見解出されておりますので、実は教育委員会におきましてもですね、先日、先だつての委員会の中でですね、これだけの大きな改革ということでさらにいろんな方の御意見を聞きながら進めたいということでこの点についてもですね、議論をしてぜひお願いしたいなという意見でまとまっていたところでございます、前例のないような形でありますけれども、極力御意見を聞きつつ改革を進めたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、1個御質問に答えてなかったのが、回数なんですけど、それはもう公式、非公式にも頻繁に開いてほしいなというふうに思います。教育委員が全員そろわなきゃいけないとかね、規定数以上そろわなきゃ開けないじゃなくて。箕面市のその教育委員会が、まあ女性が過半数を越しているということでした。まあこれちょっと私の勘違いかもしれませんが、そこであるその教育委員の方が、公募の保護者の女性の方がね、私たち女子会ですから言うので、結構頻繁に教育委員会だけで、あるいは事務局ともこう頻繁に開いているんですね。ですので最初結構聞きました。教育委員会の事務局に、箕面市の。どうですかって言ったら最初大変でしたって。もう大変でしたと。しかしだんだん回数を重ねるにつけてね、一緒にこうやっていこうよっていうことになっていったというふうに聞いています。それも半年から1年かけてそうなったって聞いてますので。最初はまたいろいろね、あると思うんですよ。まあ宗教が違いますから。やっぱり行政は行政の論理で動く部分がどうしてもあるんですよ。でもそれも議論に議論を重ねてね、万機公論に決すべしだと。これ

は引退された黒岩幸生議員からも学びましたので、ぜひね、そういうことでやっぱり議論に議論を重ねていい教育委員会になればいいと。そしてなおかつ発信できる教育委員会になってほしいというように思っています。そういう中で今回の教育委員の倍増については、これ極めて重要な施策になってまいりますので、またあわせてでありますけれども公募の仕方等についてね、また議会とよく協議をしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番 猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

これだけの教育改革をするにあたり、やはり教育委員会、教育委員の変革も当然のことと私も考えております。ぜひ多くの方が公募に手を挙げていただき、よりよい武雄市の教育、それから市民の福祉の向上にもつながると考えておりますのでよろしく願いいたします。

では次にまいります。次は水道事業でございます。山口昌宏議員さんもですね、お尋ねになりましたけれども、水道料金の引き下げ。これは市長さんのほうから9%の引き下げができるというような御発言をいただきましたけれども、簡単にて結構でございますのでまた値下げのことについてお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

筒井上下水道部長

○筒井上下水道部長〔登壇〕

水道料金の値下げについてでございますが、人件費で約4,000万。施設の統廃合や委託料の見直し、受水費等の削減で約6,000万円と営業費用で約1億円の経費削減を行っております。それにより営業利益が出ておりますのでこれを主な財源といたしまして、利用者に還元したいというふうに考えているところでございます。市長からも先だって話がありましたように平均で約9%の値下げを行いたいというふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

2番 猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。消費税や医療費はどんどん値上がりをしております。この値下げという朗報、市民の皆様とともに喜びたいというふうに思っております。

次に水道管理についてお尋ねいたします。安心して水道の水を飲めるというふうに思っておりますが、ある保護者さんのほうからですね、うちの子は学校で水道の水ば飲んだらいかんて言われようとよというようなことを聞いたことがあり、お聞きいたしました。今水筒を子どもたち持参しておりますが、水道の管理、水管理についてお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

筒井上下水道部長

○筒井上下水道部長〔登壇〕

水道課では安全安心なおいしい水を提供するため、毎日、浄水場及び市内8カ所の家庭で蛇口から採水をいたしまして検査を行っているところです。また、毎月9項目の水質検査を20カ所で3カ月に1回51項目の水質検査を16カ所で行っております。またその他随時検査を行っているところでございます。

同じく各学校へも安全安心な水を供給をいたしておりますので、これからも飲み水として大いに利用していただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。私も浄水器を家につけておりますが、水道水ががぶがぶ毎日飲んでおります。家族のものもそうでございます。学校で子どもたちが安全なお水をたっぷり飲んでですね、健康に暮らしてもらいたいというふうに思っております、子どもたちもですね。人間の体はですね、約60%が水でできているというようなことを聞きます。水は大事な健康の維持に欠かせないものでございますので、これからもよろしく願いいたします。

それでは次にまいります。六角川の水害対策、調整池等のことでございます。これは御存じのとおり大坪石材の採石場のところでございます。まだここに採石をされておりますが、ここが矢筈ダムの約3倍から4倍ですね、350万トンを貯水できるというような貯水池、予定地でございます。この進捗状況についてお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長（発言する者あり）

○森まちづくり部長〔登壇〕

（モニター使用）六角川洪水調整池の進捗状況ということですがけれども、今モニターに出しているのが上空から撮影した予定箇所の写真であります。この六角川の洪水調整池につきましては平成24年の8月に策定をされました六角川洪水整備計画、六角川水系整備計画に位置づけをされておまして、今後整備期間30年をかけて実施するというふうな整備計画になっております。これもこの部分の調整池につきましては流域内の治水のバランスを考慮して、地域の皆様の御理解と予算の確保等が整った段階で事業に着手されると武雄河川事務所から聞いております。

昨年度におきましては、関係者へ現地調査の協力をお願いをいたしまして、現地の、河川事務所において、採石場の一部箇所において地質調査がなされたところであります。今年度も引き続き現地測量や地質調査を実施していくと伺っております。市としても六角川洪水調整池整備促進期成会、あるいは六角川期成会、同盟会、それから常襲水害地対策特別委員会等と一緒にしまして事業推進へ協力、要望をしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございました。30年というような計画の見込みということでちょっと六角川流域に住んでいる者といたしましては、急いでいただきたいなあというふうに思っておるところでございますが。

この採石場跡ですね、まだ採石中でこら辺はですね、まだ十分開く余地があるというふうなことを聞いております。採石場が貯水池になるというようなことは全国的にも珍しいというふうに聞いておりますが、部長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これさっきの30年というのは六角川全体の洪水対策っていうこと、整備計画が30年かかるって。この採石場の、調整池がね30年かかるというわけじゃありませんので。これはめどがついたときから、実際もう穴ぼこはできてますので、いろんな権利関係とか予算の確保ができた段階から、ダムを一般につくるより極めて早い整備になっていきます。そのまだ入口に今私どもは立っているっていうことはちょっと重ねて伝えたいと思います。質問なんやっただけ。

〔2番「全国的に珍しい」〕

○樋渡市長（続）

珍しいです。（笑い声）

〔2番「ということでございます」〕

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

大変珍しいということでございます。期待感を持って一日も早い調整池ができることを願っております。

次にまいります。北方支所の利活用についてでございます。これ北方支所、御存じのとおり北方支所でございます。山内支所はですね、もう貸出スペースにたくさんの利用者、1階、2階、3階とですね、入っていらっしゃいます。北方支所の活用でございますが、本庁舎予定に伴ってですね、例えば婦人会、それから地域の団体や民間で簡易な行政機能を持つような企業へ貸す、そのような予定とかございませんでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川つながる部長

○平川つながる部長〔登壇〕

本庁舎の移転に伴うということで北方支所の利活用ということでございますが、具体的な議論はこれからという段階でございます。まずは現庁舎、特に2枚目の写真で御紹介いただきました北側の庁舎、こちらのほうはですね、昭和45年の建築で非常に古うございまして、雨漏りと、それから耐震上の問題も抱えてございまして、こういった課題を踏まえてこれから具体的な議論を始めさせていただきたいという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、ちょっと安全面とか考慮した上の話ですよ。やっぱり使われていないというのは最大の問題なんですね。塩漬けっていうのは問題です、塩漬けはクジラだけで結構です。そういう中で私どもとすればやっぱりですね、広くこういうことに使いたいということ、ぜひごらんになっておられる市民の皆さん、特に北方町民の皆さんたちにはね、きょう区長さんもお見えになってますし、いろんな方々もお見えになってますけれども、ぜひこういうふうに使いたいんだということをお寄せいただければ、それは私どもとしても柔軟に対応ができるというふうに思っております。使われないままっていうのは一番だめだと思っております。

私はこの中に公民館があってもいいと思っております。あるいはコンビニがあってもいいと思っております。それによって特に北方町民の市民価値の向上がね、図られるのであれば私はそれは結構だというふうに思っております。ただ、そういうニーズがない限りね、我々としても動きようがないっていうことも事実ですので、ぜひこういうことで活用したいんだということがあればね、北方町のエース、あそこに支所長がいますので。（発言する者あり）ベースじゃないです、エースです。つぶらな瞳でお待ちをしないと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございました。北方町民にとってはですね、非常にありがたいお話ではございます。使われない、こちらの解体。今はまだ、現在社協さんが入っていらっしゃいますが、老朽化をしているというようなこともお聞きいたしまして、今後注視をしてみたいというふうに思っております。

それでは最後に、女性が輝き活躍できるまちづくりについてお尋ねいたします。1月のダボス会議においても、安倍首相が活用されていない最たるものと表現された女性の力、少子高齢化、人口減少に伴って新聞やメディアで取り上げられない日はないくらい、国としても最重要課題として強化されている中、武雄市は一体どのようなお考えでありましょうか。お

尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

平川つながる部長

○平川つながる部長〔登壇〕

女性の活躍ということでございます。武雄市のほうには男女参画課という課を合併と同時に設けて、取り組みを進めさせていただいております。平成24年度にこれは市民の方々にも御参画いただきまして、第2次の武雄市男女共同参画推進計画というものを策定をいたしております。平成25年度、昨年度から平成29年度までの事業計画でございます。これにつきましては具体的なものとしまして、60ページに及びます計画でございますが、概要版というのを昨年平成25年の6月に各御家庭のほうにお配りをさせて——議員お持ちのものでございます。

〔2番 猪村議員「これが配られております」〕

概要版をお配りさせていただいております。この中では基本的な目標、あるいは理念、方針等を明記をさせていただいております。こういった内容については非常にたくさんの項目がございますので、ぜひお読みいただきたいと思っておりますし、また当市のフェイスブックのほうからホームのほうに入ってくださいますと、この概要版並びに本計画そのものも掲載をさせていただいておりますので、ぜひお読みいただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

ありがとうございます。この概要版、それから概要版は全戸配布をさせていただいております。それから2次計画についても、私幸いなことに策定にかかわらせていただいております。非常に官民共同でつくった内容となっております。それから今期DV対策についても検討をしていくというようなことが盛り込まれております。こども部のほうからそのセンターにおきまして女性の支援を、母親の支援をさせていただいているというふうに思いますが、御見解をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども部長

○諸岡こども部長〔登壇〕

子育て総合支援センターでの取り組みでございますけども、センターにつきましては平成19年度に子育て支援の中核施設として設置をしております。センターでは子育て情報の発信、相談事業、それから広場での交流活動、こういうものなどを行いまして、多くの親子の方々を中心として利用をさせていただいているところでございます。

さらに平成25年度からでございましたけれども、幼児教育や子育て支援に関する専門家

をセンター長に就任していただいております、その中では働く女性が安心して子育てができるように保育園、幼稚園、公民館などとのネットワークづくり、あるいは支援者の人材育成などに取り組んでいるところでございます。乳幼児期における教育、保育などの子育て支援は非常に大事なことであるというふうに考えておまして、今後も地域ぐるみでの支援の充実を進めていきたいと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2 番猪村議員

○2 番（猪村利恵子君）〔登壇〕

子ども子育て会議の設置などもございます。その進捗状況については次回お尋ねをいたしたいというふうに思っております。

それから私は、山口裕子議員さん、それから私と、2人の議員、それから女性の議員、私の前は上野先生でいらっしゃいました。部長ここに集われている方、女性いらっしゃいませんけれども、残念なことながらですね。国も202030。県もですね202030。2020年度までに女性の登用率を30%に上げようというようなことが叫ばれておりますが、私はそれよりも女性が結婚して子どもを産み、育てやすい環境を整えるほうが先だというふうに思っております。定住促進、お住もう課とも連携しながらですね、こういう施策をとっていくことが必要だと。それから女性が一人家庭に入り、それから職に就くということが非常に困難な時代でございます。多様性を持つ働き方について市長のお考えをお聞きいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それこそ議会で議論する話だと思うんですね。議会がこういうふうにするべきだということで、ぜひ猪村議員さん、山口裕子議員さんもそうですけど、女性の立場でね、議会でどんどん発信をしていってほしいと。その最大のが僕は一般質問だと思うんですよ。それに私たちはこういうふうにと。

それでちょっと聞きながら思ったんですがね、一つだけ申し上げると、確かにね、これを見たときに野郎ばかりなんです。これはやっぱり異様なんです。やっぱりこう男女があつてね、この社会っていうのは成り立っている。ただね、そうはいつでも元々採用で女性が少なかったというのがあるんですよ、もともと。ですのでこれね、ちょっと部長職か課長職かこれからちょっと考えたいと思うんですけども女性の公募もやろうかなということをおもいます。やっぱり女性がいらしたほうが男はさらに頑張るということなんです、社会はそうなっていますので。だからそういうふうにしていきたいなというふうに思っています。

その前にDVの話とか男女共同参画の話もありましたけど、その前に絶対に議員はお金を

返すべきだと思います。重ねてではありますけれど、きのうその配偶者の方がね、主人は、あまり言うとは特定されるので言いませんけれども、たまにぼけますからっていうのでごめんなさいって言ってきたらしいんですよ。そんなの言語道断ですよ。もしね、僕はその方がぼけてるなんて一回も思ったことがないです。僕のほうがさらにぼけてますよ。もしね、本当にぼけられているということであればね、議員は辞職すべきですよ、お金を返すのと同時に。私はそういうふうに思ってます。こういう議論が成り立つのも、前提はちゃんとした人間関係があってしかるべきだと思いますので、ぜひ重く受け止めて、もう本当にお困りなんですよ。山口議員そうでしょ。

本当にお困りなんですよ、涙流されているんですよ、無職ですよ、御高齢者ですよ、弱い立場の方なんですよ。これを放置しておくのが僕は最大の弱い者いじめだというふうに思っていますので、こういう輩とは私は徹底的にあらゆる場を通じて、私の意見をきちんと申し上げていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番猪村議員

○2番（猪村利恵子君）〔登壇〕

何ともコメントがしがたくなってしまいましたけれども。（笑い声）

最後に、一月前にですね、北方のとある老人会に市長さん来ていただきまして、御挨拶をしていただきました。なぜこの写真を最後に出したかというとですね、最初市長さん何ば話しんさあろうか、話してくんさあろうかっていうような緊張した面持ちの高齢者の方々が、市長さんが10分ぐらいのお話の約束を40分ぐらい話してくださいました。（笑い声）それにこの高齢者の方々、老人会に来られていた方々に6年後の東京オリンピックに僕が全員連れていきますよ。（笑い声）いや、それがですね、冗談、うそかもしれないけれども、高齢者の方々、ここに集っている方々がですね、目を輝かせて生き生きなって、本当に終わったときには顔の色つやがよく、最後に星影のワルツまで歌って終わったんですけども、市長さんと一緒にですね。でも本当にですね、私はこれだと思いました。若い自分の子や孫のような市長ですけども、男性から激励を受けて、そして今から長生きしていかんばいかん、文字は書かんばいかんですよ、オリンピック行くけん、長生きしとってくださいね、そういう若い者からですね、声をかけていただくということがこの高齢者の方々にとって最も最大なる薬ではないかなというふうに思いました。

元気のある、やる気のある大人が子どもたちも変えていく。私はそう信じてやみません。しっかり教育改革、それから市民の福祉の維持向上に邁進してまいりたいというふうに思い、お誓い申し上げて、猪村利恵子の一般質問を終わります。（拍手）

○議長（杉原豊喜君）

傍聴席から拍手はしないように。

以上で、2番猪村議員の質問を終了させていただきます。